

## 早産、出産前ステロイド療法、至適投与法、至適投与時期 .....1

出産前コルチコイド予防投与は、早産児の合併症、有病率および死亡率を減少させることが確認されている。24～34週の出産児において出産前コルチコイド療法は有効で、特に投与後24時間から7日未満で有用性が高いことが確認された。NIHのカンファレンス後、出産前コルチコイド投与は24～34週の早産の80%以上に使用されるようになった。妊娠36週超で出産した児において、コルチコイドの投与は新生児死亡を2.6倍上昇させたという結果も報告されている。医師が直面する大きな問題の一つは、出産の正確なタイミングがしばしば不明であるという点である。

2000年のNIHのカンファレンスで反復投与は否定されたが、1回の追加投与の有用性は示唆された。コルチコイド投与に関してまだ回答が示されていない問題があり、いくつかの研究が進行中である。低収入の国々において、なぜ、コルチコイドの使用頻度が低値に留まっているかという点についても検討が必要である。低収入の国々において、出生前ステロイド療法を施行したとしても生存率に改善は認められなかったと報告されている。

本号にRazazらはカナダのNova Scotiaにおいてステロイド投与に関わる諸問題を検討した結果を発表している。至適投与期間以外の出産例も多く、そのような例でステロイド投与の有用性に関してはよく判っていない。2012年のステロイドの投与を受けた女性においては、52%が35週以降の分娩となっているのも問題である。妊娠34週超で出産した児にはリスクをもたらす可能性もあり、ステロイドの投与により慎重なアプローチが必要である。

Appropriate Use of Antenatal Corticosteroid Prophylaxis

Goldenberg, Robert L.; McClure, Elizabeth M.

Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):285-287

【文献番号】 o01300 (早産、切迫早産、子宮収縮抑制、診断、治療、リスク因子、モニタリング、ACS、ステロイド)

## 早産、副腎皮質ホルモン、至適投与法、疫学調査 .....3

出生前ステロイド療法を受けた妊婦において適切な時期に投与を受けたものの割合は上昇したが同時に至適投与あるいは投与が疑問視されるような患者の割合も上昇した。このような状況から考え、早産例に適切時期のステロイドの投与を促すモデルを開発する必要があると思われる。

Trends in Optimal, Suboptimal, and Questionably Appropriate Receipt of Antenatal Corticosteroid Prophylaxis

Razaz, Neda; Skoll, Amanda; Fahey, John; Allen, Victoria M.; Joseph, K. S

Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):288-296

【文献番号】 o01300 (早産、切迫早産、子宮収縮抑制、診断、治療、リスク因子、モニタリング、ACS、ステロイド)

## 帝王切開、創部感染、予防処置、予防的減圧閉鎖創傷療法、費用対効果 .....5

帝王切開の術後の創部の感染のリスクの低い患者においては、予防的減圧閉鎖創傷療法は標準的な創部処置と比較しメリットは認められず、使用すべきではないという結果が得られた。しかし、創部感染のリスクが高い患者においては予防的減圧閉鎖創傷療法は費用対効果の面で優れている可能性がある。

Prophylactic Use of Negative Pressure Wound Therapy After Cesarean Delivery

Echebiri, Nelson C.; McDoom, M. Maya; Aalto, Meaghan M.; Fautleroy, Jessie; Nagappan, Nagammai; Barnabei, Vanessa M.

Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):299-307

【文献番号】 o06400 (帝王切開、合併症、VBAC、試験分娩、リスク因子、子宮破裂、子宮摘出)

## 子宮頸癌、スクリーニング、ガイドライン、細胞診、HPVテスト .....7

FDAが認めた細胞診とHPVテストの併用を3年ごとに行う方法をすべての患者やケア提供者が利用できるようにすることが妥当な選択肢と思われる。2012年の5年ごとに細胞診とHPVテストを行うというガイドラインは我々の考えている選択肢を変更させるようなものではない。

Increased Cervical Cancer Risk Associated With Screening at Longer Intervals

Kinney, Walter; Wright, Thomas C.; Dinkelspiel, Helen E.; DeFrancesco, Mark; Thomas Cox, J.; Huh, Warner

Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):311-315

【文献番号】 g02800 (細胞診、コルポスコプ、スクリーニング、パピローマウイルス、LEEP、円錐切除、生検)

---

## 子宮頸癌、スクリーニング法、HPVテスト、細胞診、併用スクリーニング、スクリーニング間隔 .....7

ルーチンにスクリーニングを受けている女性の多くは、もし、医師に勧められた場合、細胞診単独の頸癌のスクリーニングの戦略あるいは細胞診とHPVテストの併用を3年ごとに行うことを受容してもよいという考えを有していた。しかし、女性はHPVテストについて不安を有し5年ごとにスクリーニング間隔を延長するということに関しても懸念を有していた。35歳超のルーチンにスクリーニングを受けている女性において、新たなHPVを基本にしたスクリーニングを受け入れたくないという考えのものが多かった。

Patient Concerns About Human Papillomavirus Testing and 5-Year Intervals in Routine Cervical Cancer Screening  
Silver, Michelle I.; Rositch, Anne F.; Burke, Anne E.; Chang, Katie; Viscidi, Raphael; Gravitt, Patti E.  
Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):317-329

【文献番号】g02800 (細胞診、コルポスコブ、スクリーニング、パピローマウイルス、LEEP、円錐切除、生検)

---

## 子宮頸癌、スクリーニング、hrHPVテスト .....13

2011年、アメリカ癌学会などの主要学会が子宮頸癌の早期の発見のためのスクリーニングのガイドラインを改訂した。今回、HPVテストを頸癌の一次スクリーニングとして適用拡大することを目指し専門家会議が招集された。hrHPVによる一次スクリーニングは細胞診のみを用いたスクリーニングと比較しメリットがあるという結果が得られた。hrHPVの一次スクリーニングは細胞診単独や細胞診とHPVテストを併用するスクリーニングの代替法となる。25～29歳の女性においてhrHPVを用いた一次スクリーニングはCIN3の検知率を高めると考えられる。hrHPVを基礎にした一次検査は頸癌に関わる合併症や死亡率を低下させるのではないかとと思われる。

Use of Primary High-Risk Human Papillomavirus Testing for Cervical Cancer Screening: Interim Clinical Guidance  
Huh, Warner K.; Ault, Kevin A.; Chelmow, David; Davey, Diane D.; Goulart, Robert A.; Garcia, Francisco A. R.; Kinney, Walter K.; Massad, L. Stewart; Mayeaux, Edward J.; Saslow, Debbie; Schiffman, Mark; Wentzensen, Nicolas; Lawson, Herschel W.; Einstein, Mark H.  
Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):330-337

【文献番号】g02800 (細胞診、コルポスコブ、スクリーニング、パピローマウイルス、LEEP、円錐切除、生検)

---

## 卵管切除術、子宮摘出術、卵管結紮術、卵巣癌、費用対効果、平均余命 .....14

良性疾患のために子宮摘出術を行う際に卵管切除術を試みることによって受容できるコストで卵巣癌のリスクを低下させることができる。また、卵管結紮術に代わって卵管切除術を施行することは費用対効果の面で優れた代替法となると思われる。便宜的卵管切除術は手術を受ける女性すべてに考慮される方法である。

Costs and Benefits of Opportunistic Salpingectomy as an Ovarian Cancer Prevention Strategy  
Kwon, Janice S.; McAlpine, Jessica N.; Hanley, Gillian E.; Finlayson, Sarah J.; Cohen, Trevor; Miller, Dianne M.; Gilks, C. Blake; Huntsman, David G.  
Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):338-345

【文献番号】g09300 (婦人科腫瘍、家族性腫瘍、癌遺伝子、遺伝カウンセリング、予防的摘出手術、スクリーニング、乳癌)

---

## 妊娠後期、死産、リスク因子、仰臥位睡眠、胎児発育不全 .....16

仰臥位で睡眠することによってすでに問題を認めている胎児において妊娠後期の死産のリスクを高めるのではないかとと思われる。胎児発育不全が疑われた場合、妊娠後期の死産を減少させる上で有用な臨床的管理法について検討してみる必要がある。

Sleep Position, Fetal Growth Restriction, and Late-Pregnancy Stillbirth: The Sydney Stillbirth Study  
Gordon, Adrienne; Raynes-Greenow, Camille; Bond, Diana; Morris, Jonathan; Rawlinson, William; Jeffery, Heather  
Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):347-355

【文献番号】o10100 (周産期死亡、死産、胎児死亡、新生児死亡、乳児死亡、新生児合併症)

---

## 非侵襲的出生前テスト、胎児染色体、cell-freeDNA、性染色体、偽陽性、偽陰性 .....19

性染色体の異数性に対する非侵襲的出生前テストの結果は母体や胎児の生物学的な現象によって影響を受ける非侵襲的出生前テストの結果が不一致であった場合には、その原因を調べるために母体の既往歴、詳細な胎児の超音波検査、胎児、恐らくは母体の核型分析の検査が必要である。

Fetal Sex Chromosome Testing by Maternal Plasma DNA Sequencing: Clinical Laboratory Experience and Biology  
Bianchi, Diana W.; Parsa, Saba; Bhatt, Sucheta; Halks-Miller, Meredith; Kurtzman, Kathryn; Sehnert, Amy J.; Swanson, Amy  
Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):375-382

【文献番号】r09200 (出生前診断、着床前診断、着床前スクリーニング、男女産み分け)

---

---

## PGS、非侵襲的出生前スクリーニング、超音波検査、染色体異常 .....22

PGS、非侵襲的出生前スクリーニングおよび超音波検査などのいろいろな方法が試みられるようになり、不一致という検査結果が得られるものも増え、専門家による対応が求められるのではないと思われる。

Discordant Embryonic Aneuploidy Testing and Prenatal Ultrasonography Prompting Androgen Insensitivity Syndrome Diagnosis

Franasiak, Jason M.; Yao, Xinxin; Ashkinadze, Elena; Rosen, Todd; Scott, Richard T. Jr  
Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):383-386

【文献番号】 r09100 (染色体異常、遺伝子異常、妊孕性、先天奇形、imprinting disorder)

---

## 低侵襲性出生前テスト、偽陽性、モザイク型ターナー症候群 .....23

3例の妊娠例において非侵襲性出生前テストで胎児の性染色体異常を示す結果が得られたが、母体の性染色体の数的異常が胎児性染色体の数的異常を示唆する結果をもたらしたものであった。児はすべて正常核型分析であることが確認されたが、3名の母親はすべて性染色体の数的異常を有していた。1例は以前の検査で判明していたが、他の2人は非侵襲的テストの結果が明らかとなった後の核型分析で性染色体異常が検知されたものであった。

Maternal Source of False-Positive Fetal Sex Chromosome Aneuploidy in Noninvasive Prenatal Testing

McNamara, Christopher J.; Limone, Laura A.; Westover, Thomas; Miller, Richard C.  
Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):390-392

【文献番号】 r09200 (出生前診断、着床前診断、着床前スクリーニング、男女産み分け)

---

## MRI、三次元CT血管造影、Rokitansky症候群、MRKH症候群、子宮筋腫 .....24

MRIと三次元CT血管造影によってMayer-Rokitansky-Kuster-Hauser (MRKH) 症候群に発生した子宮筋腫の解剖学的な状況を正確に診断することができた。

Three-Dimensional Computed Tomography of Pelvic Masses in Mayer-Rokitansky-Kuster-Hauser Syndrome

Hasegawa, Ayumi; Igarashi, Hideki; Ohta, Tsuyoshi; Kurachi, Hirohisa; Takahashi, Kazuhiro  
Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):393-396

【文献番号】 r10602 (性器奇形、子宮奇形、膣欠損症、半陰陽)

---

## 子宮摘出術、良性疾患、悪性腫瘍、術後診断 .....25

良性疾患と考え子宮摘出を受けた患者において予期しない悪性疾患の認められる割合は2.7%で、その中には子宮肉腫が0.22%、子宮内膜癌が1.02%含まれていた。確かな子宮肉腫の予測因子は認められなかった。

Unexpected Gynecologic Malignancy Diagnosed After Hysterectomy Performed for Benign Indications

Mahnert, Nichole; Morgan, Daniel; Campbell, Darrell; Johnston, Carolyn; As-Sanie, Sawzan  
Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):397-405

【文献番号】 g07600 (手術関連事項)

---

## 正中切開、創部ヘルニア、低栄養、至適腫瘍減少手術 .....28

正中切開後の早発性創部ヘルニアの形成は低栄養状態や至適腫瘍減少手術が行われなかったものと相関した。一方、遅発性ヘルニアは年齢の上昇と相関した。

Risk Factors for Early-Occurring and Late-Occurring Incisional Hernias After Primary Laparotomy for Ovarian Cancer

Spencer, Ryan J.; Hayes, Kristin D.; Rose, Stephen; Zhao, Qianqian; Rathouz, Paul J.; Rice, Laurel W.; Al-Niaimi, Ahmed N.  
Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):407-413

【文献番号】 g07520 (術後合併症、術後癒着、術中合併症)

---

## 子宮内膜癌、子宮内膜増殖症、スクリーニング、sonohysterography、子宮内膜吸引 .....30

sonohysterographyの時点において子宮内膜吸引を行うことによって、子宮内膜癌あるいは子宮内膜増殖症のリスクがある閉経後の女性において、病変を検知する上で高い感度と特異度が得られ、このアプローチは信頼できるスクリーニングのアルゴリズムであると思われる。sonohysterographyの時点における子宮内膜の吸引は第一ステップの子宮内膜の評価法となるのではないと思われる。

Simultaneous Endometrial Aspiration and Sonohysterography for the Evaluation of Endometrial Pathology in Women Aged 50 Years and Older

Rotenberg, Ohad; Renz, Malte; Reimers, Laura; Doulaveris, Georgios; Gebb, Juliana; Goldberg, Gary L.; Dar, Pe'er  
Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):414-423

【文献番号】 g02600 (子宮内膜癌、子宮体部腫瘍、子宮内膜増殖症、子宮肉腫、子宮内膜過形成)

---

---

## 子宮内膜癌、子宮内膜生検、外科的期別診断、待機時間、生存率 .....34

タイプ1の子宮内膜癌と診断された患者において子宮内膜生検の時点から外科的期別診断までの待機時間は生存率の低下とは相関しないという結果が得られた。

Time Interval Between Endometrial Biopsy and Surgical Staging for Type I Endometrial Cancer: Association Between Tumor Characteristics and Survival Outcome

Matsuo, Koji; Opper, Neisha R.; Ciccone, Marcia A.; Garcia, Jocelyn; Tierney, Katherine E.; Baba, Tsukasa; Muderspach, Laila I.; Roman, Lynda D.

Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):424-433

【文献番号】 g02600 (子宮内膜癌、子宮体部腫瘍、子宮内膜増殖症、子宮肉腫、子宮内膜過形成)

---

## 婦人科悪性腫瘍、手術、腹水、保存的療法 .....37

婦人科悪性腫瘍に対する手術後に継続する腹水が認められた場合、保存的療法を試みた後に手術が必要な症例もある。婦人科癌を有する患者をケアする際にはいろいろな選択肢を考慮してみる必要がある。

Lymphatic Mapping and Ligation for Persistent Ascites After Surgery for Gynecologic Malignancy

Janco, Jo Marie Tran; Gloviczki, Peter; Friese, Jeremy L.; Cliby, William A.

Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):434-437

【文献番号】 g07520 (婦人科手術、術後合併症、術後癒着、術中合併症)

---

## 早産、ビタミンD、リスク因子、疫学調査 .....38

ビタミンDが充足している場合には早産に対し予防的効果があることが認められた。従来からの疫学調査の結果とも合わせ考えた場合、今後、母体のビタミンDの補充が早産を予防する効果があるか否か調べるための無作為臨床試験を行う必要がある。

Early-Pregnancy Vitamin D Deficiency and Risk of Preterm Birth Subtypes

Bodnar, Lisa M.; Platt, Robert W.; Simhan, Hyagriv N.

Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):439-447

【文献番号】 o01300 (早産、切迫早産、子宮収縮抑制、診断、治療、リスク因子、モニタリング、ACS、ステロイド)

---

## 破水、羊水、 $\alpha$ -fetoprotein、鑑別診断、尿、腔分泌液、精液 .....39

破水が疑われた場合には $\alpha$ -fetoproteinを指標に羊水とその他の体液とを区分することができる。パッドを用いて $\alpha$ -fetoproteinを測定する方法は破水を診断する上で正確で簡便な方法となるのではないかと考えられる。

Alpha-Fetoprotein as a Tool to Distinguish Amniotic Fluid From Urine, Vaginal Discharge, and Semen

Mor, Amir; Tal, Reshef; Haberman, Shoshana; McCalla, Sandra; Irani, Mohamad; Perlman, Jaqueline; Seifer, David B.; Minkoff, Howard

Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):448-452

【文献番号】 o04100 (前期破水、早期破水、早産、羊水感染)

---

## 先天奇形、超音波検査、妊娠早期、cardiac axis、スクリーニング .....41

妊娠早期において先天性心奇形を有する胎児の2/3においてはcardiac axisの異常が認められた。NTに加えcardiac axisの測定を試みることは先天性心奇形のリスクのある児を特定する上で有用である。

Fetal Cardiac Axis and Congenital Heart Defects in Early Gestation

Sinkovskaya, Elena S.; Chaoui, Rabih; Karl, Katrin; Andreeva, Elena; Zhuchenko, Ludmila; Abuhamad, Alfred Z.

Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):453-460

【文献番号】 o09100 (先天奇形、先天性疾患、新生児スクリーニング、リスク因子、放射線障害)

---

## 子宮全摘出術、合併症、再入院、リスク因子 .....42

子宮摘出を受けた患者における再入院の割合を低下させるためには合併症を減少させ合併症をみた患者におけるケアの改善を図ることが重要である。

Factors Associated With 30-Day Hospital Readmission After Hysterectomy

Dessources, Kimberly; Hou, June Y.; Tergas, Ana I.; Burke, William M.; Ananth, Cande V.; Prendergast, Eri; Chen, Ling; Neugut, Alfred I.; Hershman, Dawn L.; Wright, Jason D.

Obstet Gynecol. 2015 Feb;125(2):461-470

【文献番号】 g07520 (術後合併症、術後癒着、術中合併症)

---